あの感動が、再び。

総力特集

感動の国体。

Dramatic Days 2016.10.1–11

@National Sports Festival in Kiboukyo Iwate

**46年ぶりに本県で開催されたスポーツの祭典「希望郷いわて国体」。
スポーツが生み出す感動が、人々の心を震わせた。
本市は、再びサッカー競技少年男子の会場地に。
未来のスター選手たちが全国から集結し、
「サッカーのまち遠野」のピッチで熱戦を繰り広げた。
感動と熱狂の11日間を振り返る。**

取材協力／(一財)遠野市教育文化振興財団　とおの松寿会記録撮影ボランティア

写真／大観衆が見守る中、岩手県代表の熱戦が繰り広げられた

白熱した試合に熱い視線を注ぐ大観衆。必死にボールを追う選手に、最後まで声援が送られた―。

昭和45年の岩手国体以来、46年ぶりに開催された「希望郷いわて国体」。本大会は、10月1日から11日までの11日間の日程で行われ、国内のトップアスリートが熱戦を繰り広げた。

本市は、再びサッカー競技の会場地に。2日から6日までの5日間の日程で、「少年男子」の全24試合を実施。各ブロック大会を勝ち抜いた24都道府県の代表チームが、遠野のピッチで全国の頂点を争った。会場には、連日多くの市民が詰め掛け、サッカー少年たちの奮闘にエールを送った。

本市がサッカー競技少年男子の会場地に内定したのは、今から6年前の平成22年。以来、市民が一丸となって準備を進めてきた。開催期間中は、「自分のできる形で参加しよう」を合言葉に、市民総出によるおもてなしを展開。全国から訪れた選手や大会関係者らを笑顔にし、温かい交流を育んだ。

「サッカーのまち遠野」が盛り上がるきっかけとなった、昭和45年の岩手国体。あの感動の光景が、46年の時を経て蘇った―。

伝説的に語られる昭和45年岩手国体。遠野はサッカー競技の会場地となり、サッカーのまちとして定着した。写真は、現在の国体記念公園市民サッカー場で開催された、成年男子の一枚。

東日本大震災復興の架け橋　第71回国民体育大会
2016 希望郷いわて国体
広げよう 感動。伝えよう 感謝。

総合開会式は天皇皇后両陛下のご臨席のもと盛大に行われた

「広げよう 感動。伝えよう 感動。」をスローガンに、東日本大震災の被災地では初となる国体が開幕した。総合開会式は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと開催。選手団や大会関係者、観客ら約2万7千人が参加した。沖縄を先頭に、南から北へ各都道府県選手団が堂々と入場行進。最後に本県選手団が入場すると、観客から大声援が送られた。

本年6月に市内各町で採火し、7月の100日前イベントで集火した遠野市の炬火（きょか）は、県内33市町村の炬火と一つになり「希望郷いわての火」に。炬火台に灯されると、会場は大きな拍手に包まれた。

46年前のように、見事な秋晴れが開幕を祝福。式典の前後には多彩な催しが行われ、全国に復興支援への感謝を伝えた。オープニングイベントには、遠野一輪車クラブのメンバーがユニサイクルいわての一員として出演し、華麗な演技を披露した。

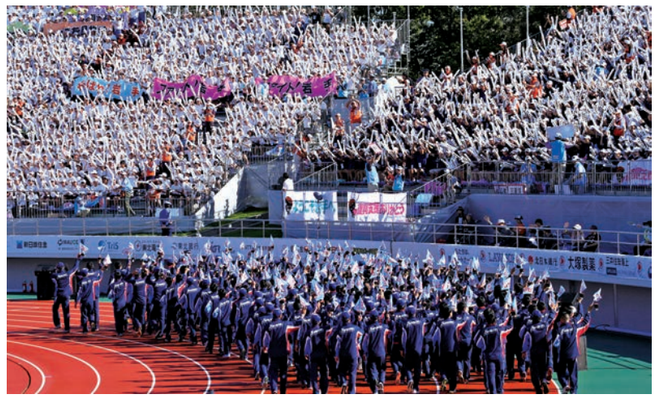
本大会には、全国47都道府県の選手団約2万3千人が参加。11日間の日程で、県内24市町村で36の正式競技と、特別競技の高校野球が実施された。

震災復興の祈りが込められた「希望郷いわての火」が炬火台に燃え上がった

Opening Ceremony

総合開会式
復興支援への感謝を発信。

上／ユニサイクルいわての一員としてオープニングイベントに出演した遠野一輪車クラブ
下／大声援を送る観客に本県選手団は手を振って応えた



東日本大震災復興の架け橋　第71回国民体育大会
2016 希望郷いわて国体
広げよう 感動。伝えよう 感動。

秋晴れの下、46年ぶりの祭典が開幕。

感動の国体。
Dramatic Days

東日本大震災復興の架け橋第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」。本県では46年ぶりの開催となる本大会の総合開会式は10月１日、北上市の北上総合運動公園陸上競技場で開催され、熱狂の11日間が幕を開けた。

写真／総合開会式では、感謝を伝える多彩な催しが繰り広げられた

1＿攻撃の要となったＦＷ村井勇仁（盛岡商業高１）は相手の厳しいチェックをかわし、両サイドを何度もえぐった　2・3＿県内から選抜された選手、監督、コーチは心を一つに戦った　4＿会場は立ち見が出るほどの超満員

第１部

遠野熱狂。

サッカー競技少年男子の会場地になった、遠野。
日本サッカーの未来を背負う選手たちが集結した。
ハイレベルな戦いは、遠野を熱狂させた。

岩手イレブン、今大会準Ｖの大阪に惜敗。

岩手代表の初戦は10月2日、遠野運動公園多目的運動広場で行われた。岩手イレブンは、市内外から訪れた約2千人の応援団の声援を受け奮闘。今大会で準優勝し、Ｊリーグのユース選手を主体とする大阪を相手に死力を尽くして戦ったが、0対2で敗れた。

立ち上がりは動きが硬かった。前半はボールを支配される場面が続き、ＤＦで主将の澤口眞一（盛岡商業高2）とＤＦ佐藤莉楓（遠野高2）を中心に守備を固めたが、16分にコーナーキックから失点。ＦＷの村井勇仁（盛岡商業高2）を軸に果敢に攻め込むも、シュートに至らなかった。

後半は、遠野中出身のＭＦ太田竜雅（遠野高1）とＦＷ立花健斗（同1）らがシュートを放ち、会場を沸かせたが、あと一歩のところで得点に結び付かない。焦りが見え始めた後半33分、フリーキックから追加点を許してしまう。最後まで歯を食いしばって走り続けたが、無情にも試合終了のホイッスルは鳴った。選手の奮闘に、会場からは大きな拍手が送られた。

岩手イレブンは、地元国体に向け約4年前から強化に着手。メンバーは、中学1年の頃から遠征や合同練習に臨み、実力を高めてきた。初戦で敗れたものの、国体を通じて岩手のレベルが底上げされたのは事実。選抜チームは今回で解散するが、選手はそれぞれのチームに戻り、今回の経験をフィードバックするだろう。

遠野の期待を背負って出場した太田は「大声援に応えられず、申し訳ない。国体で培った経験と技術、そしてこの悔しさを今後に生かし、高校サッカーの頂点を目指す」と目を真っ赤にして話した。声援を送ったヴァレンテ遠野の監督・菊池広信さんは「今大会の経験は、本県のサッカーの発展につながるはず。県代表の頑張りに拍手を送りたい」と称えた。

感動の国体。
Dramatic Days

5・6＿ＤＦ佐藤莉楓（４番、遠野高２）とＤＦ鈴木翔生（６番、盛岡商業高１）が固い守りを見せた　7＿何度もゴールを襲う大阪。主将のＤＦ澤口眞一（盛岡商業高２）とＧＫ上田翼（同１）が体を張ってしのぐ　8＿途中出場したＦＷ立花健斗（遠野高１）は、キレある動きで相手ゴールに迫った　9＿立花のシュートはキーパーの手をはじくも、こぼれ球を押し込むことができなかった　10＿遠野出身のＭＦ太田竜雅（遠野高１）が後半に放った渾身のシュート　11＿最後まで戦い抜いたイレブンに惜しみない拍手が送られた

【サッカー競技少年男子　第１試合】
岩手 0 [0-1] [0-1] 2 大阪

全国からの復興支援への感謝を込め、全力でプレーした彼らの姿は感動を呼んだ

SOCCER DIGEST

第3章 遠野熱狂。

Interview

遠野を訪れた人に聞きました

遠野の皆さんの応援に感謝

山口 直也（なおや）さん 広島県代表 主将

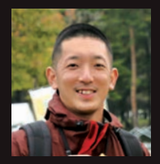
遠野の皆さんの優しいおもてなしや、毎試合の応援は、本当に力になりました。遠野の皆さんのことは、一生忘れません。ありがとうございました。

将来はプロ選手に

上川 琢（たく）さん 神奈川県代表 主将

天然芝の素晴らしい会場でプレーでき、誇らしかった。遠野での国体の経験を生かし、将来はプロとして活躍できる選手になってみせます。

愛媛国体では遠野をお手本に



日野 雄介（ゆうすけ）さん 愛媛県西条市 国体担当

来年の愛媛国体に備え、遠野を視察。市民によるおもてなしや、地元の児童生徒による応援は圧巻でした。遠野をお手本に、私たちも頑張ります。

一緒に応援できて楽しかった

安田 裕樹（ひろき）さん 大阪代表サポーター

学校応援の子どもたちが、僕といっしょに応援してくれて力強かったです。ただし、初戦を除いて(笑)。いつかまた、ゆっくり遠野に来たいなぁ。

遠野の優しさに感激

上川 和恵（かずえ）さん 神奈川県海老名市

息子の応援のため遠野に滞在。仲良くなった地元の人に「3位になったよ」と報告したら、一緒に喜んでくれました。遠野の優しさに感激しました。

【サッカー競技少年男子 大会結果抜粋】

＜決勝戦＞

広島 2－1 大阪

＜3位決定戦＞

神奈川 6－0 東京

未来のスター選手が、さわやかにプレー。

7・8・9_全国から集結したサッカー少年が遠野で躍動 10_応援団と選手がハイタッチ 11_入賞チームには遠野の特産品を贈呈 12_初優勝を果たした広島の選手は、応援してくれた遠野中生とともに喜びを分かち合った

感動の国体。Dramatic Days

1_エスコートキッズは選手と一緒に笑顔で入場 2・3_決勝は大阪と広島のカード。大観衆が見守る中、試合は白熱した 4_接戦を制し、広島が全国の頂へ。選手の雄叫びが会場にこだまする 5_報道関係者も詰め掛けた 6_会場は連日サッカーファンでにぎわたった

Jリーガーの多くが出場経験を持つと言われる、国体のサッカー競技少年男子。出場資格は14～16歳。実力ある選手が都道府県チームに選抜され、ブロック大会を勝ち抜いた23チームと開催県のみが出場を許される。今大会にも、将来のプロ選手や日本代表を期待される384人が出場し、ピッチを勇猛果敢に駆け巡った。

競技は10月2日から6日までの5日間、遠野運動公園と国体記念公園市民サッカー場を会場に、全24試合を実施。全国トップレベルの試合を一目見ようと、5日間で延べ1万6千人の観客が来場した。また、サッカー関係者や報道関係者も熱い視線を送った。

最終日は、遠野運動公園陸上競技場を舞台に決勝戦と3位決定戦を実施。決勝戦は、岩手を破った大阪と、3連覇を狙う神奈川を準決勝で破った広島が激突。3位決定戦は、東京と神奈川の関東対決となった。

3位決定戦は、6対0で神奈川が前回覇者の貫録を見せつけ3位をもぎ取る。決勝戦は互角の戦い。前半に先制を許した大阪は、後半に追いつき1対1の同点に。しかし、その後すぐに追加点を許し2対1。1点差を守り抜き、広島は初優勝を果たした。

東北勢は、青森山田高校の単独チームで臨んだ青森県のベスト8が最高だった。

決勝を応援した遠野中サッカー部の馬場涼平（りょうへい）君（3年）は「全国レベルの迫力を目の当たりにし、いい刺激になった。自分も遠野高校でサッカーを続け、全国を目指したい」と夢を膨らませた。

開催期間中は、選手に地元感覚で戦ってもらうため、市内の児童生徒が全試合を応援。また、市内の子どもたちが「エスコートキッズ」として選手と入場したほか、ハーフタイムには「わんこダンス」を披露し、試合を盛り上げた。

SOCCER DIGEST

遠野熱狂。

学校応援が選手を鼓舞

選手が地元感覚でプレーできるように、市内の児童生徒による学校応援が、全試合で展開された。各校は、国体のためにサッカー応援を練習したほか、独自の横断幕や寄せ書きなどの応援グッズを用意して声援を送った。

ホップ和紙を開発した遠野緑峰高の生徒と地域住民は、共同でしおりを手作り。遠野ならではの記念品として、選手全員に贈呈した。

ホップ和紙のしおりをプレゼント

郷土料理と特産品でＰＲ

会場のおもてなしコーナーでは、市民ボランティアなどが、ひっつみ汁やジンギスカンなどの郷土料理や特産品を振る舞い、来場者をもてなした。

3万市民の全力応援 遠野のおもてなし

3万市民の全力応援は、全国から訪れた人を感動させた。国体を振り返るのに欠かせない、ボランティアの活躍や遠野ならではの温かいおもてなしを紹介。

これまで、市民総ぐるみで練習してきた「わんこダンス　国体バージョン」。試合のハーフタイムには、市内の園児や児童生徒が客席前でダンスを披露。観客も一緒に踊り、盛り上がった。

ハーフタイムにわんこダンス

宿泊施設のサポート

市内の宿泊施設では、選手が万全の体調で試合に臨めるよう、厳しい衛生管理と栄養たっぷりの料理、温かいおもてなしでサポートした。

完璧なグラウンド

会場管理にあたった㈱遠野施設管理サービスは、美しい天然芝のグラウンドを提供し、選手の活躍を支えた。

美しい会場

市民ボランティアを中心に環境美化活動を展開。来場者には、「ゴミ一つない」と評判だった。

花とのぼりで歓迎

市民総出で取り組んできた花いっぱい運動。会場や沿道、市内の主要施設などに、メッセージ入りのプランターを合計2500個設置し、訪れた人を歓迎。また、都道府県への応援メッセージを手書きしたのぼりも掲げられた。

エスコートキッズが選手と一緒に入場

市内の小学1・2年生らが、試合開始前に選手と一緒に入場行進。会場を笑顔にした。

活躍を見守った千羽鶴

市内の高齢者らが一つ一つ折った千羽鶴は、全チームに贈呈された。

Interview

国体に携わった皆さんに聞きました

郷土料理のお振る舞い

高橋 真紀（まき）さん 41歳＝綾織町＝

天然きのこや地鶏など地元の食材をふんだんに使用したひっつみ汁を、来場者に振る舞いました。全国の皆さんに喜んでもらい、嬉しかったですね。

学校応援

菊池 将太（しょうた）さん 遠野東中３年

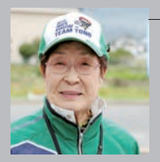
国体のために、サッカー応援を全校で練習。東日本大震災の復興支援への感謝を込め、出場したチームに、声が枯れるまで声援を送り続けました。

環境美化

小田島 洋子（ようこ）さん 51歳＝第一生命遠野営業所＝

地元国体に参加したい一心でボラティアに。来場者に笑顔で帰ってもらえるよう、清掃や明るい挨拶など、自分にもできることで応援しました。

総合案内



海老 洋子（ようこ）さん 76歳＝早瀬町＝

会場や競技のことだけでなく、市内の観光名所や特産品なども一緒にご案内。国体がきっかけで、遠野ファンが増えてくれたらうれしいです。

アナウンス

菊池 優那（ゆうな）さん 遠野高２年

遠くにいる選手や観客にも届くよう、聞こえやすく、響く声を心がけました。会場の熱気が放送席まで伝わり、アナウンスにも力が入りました。

エスコートキッズ

平野 暖人（はると）君 遠野北小２年

選手と手をつないで入場するときは緊張したけど、楽しかったです。一緒に入場した選手には、「がんばってね」と言うことができました。

エスコートキッズ

阿部 結菜（ゆいな）さん 宮守小２年

一緒に入場したチームが勝てるように、笑顔で入場行進しました。記念撮影では、選手になったつもりで格好良くポーズをとりました。

記録撮影

菊池 浩之（ひろゆき）さん 49歳＝とおの松寿会＝

選手の躍動や歓声に沸く客席など、会場内の熱気と感動をカメラに夢中で収めました。国体で輝く「若者の力」を切り取ることができたと思います。

感動の国体。
Dramatic Days

感動の国体。
Dramatic Days

遠野熱狂。

国体が生んだ感動

3万市民の全力応援は、全国から訪れた人に感動を与え、そして、私たちも感動をもらった。

「歓迎・感謝・参加」をスローガンに、市民総参加で取り組んだ国体。開催期間中は、実にたくさんの市民が大会運営を支えた。

総合案内や交通整理、環境美化、記録撮影など、緑色のジャンパーを着たボランティアがそれぞれの仕事に奔走。学校応援やエスコートキッズ、郷土食のお振る舞いなど、遠野ならではのおもてなしで会場はにぎわった。毎日のように会場に足を運び、選手に声援を送り続けた、遠野のサッカーファンも大会を盛り上げた。

会場の外でも、おもてなしが光った。訪れた人を明るい笑顔とあいさつで歓迎する地域住民、選手の滞在を温かくサポートした宿泊施設、おもてなし料理を提供した飲食店など、さまざまな参加のカタチがあった。

3万市民の全力応援は、やがて遠野の熱気となり、全国から訪れた人を感動させた。そして、私たちも、全国の頂点を目指して熱戦を繰り広げる選手から、大きな感動をもらった。正々堂々と、最後までひたむきにボールを追う姿に、私たちは勇気づけられた。

試合前後の交流もたくさん生まれた。出場する人も、運営する人も、そして、支える人も、みんなが一緒になって国体を楽しみ、感動を共有した。国体が生み出した数々のドラマは、私たちの心の中でずっと輝き続けることだろう。

千羽鶴のお礼のため、ふれあいホーム薬研淵を訪問した大阪選手団。鶴を折ってくれた高齢者に、準優勝を報告した。

感動をチカラに、未来へ、キックオフ。

46年ぶりに開催された国体は、
市民の心を揺さぶり、
遠野を熱狂させ、
大きな感動を生み出した。
この感動は、未来を切り開くチカラになる。
「サッカーのまち遠野」を次世代へ。
46年後の国体も、
遠野がサッカー会場であるために―。

遠野熱狂。

熱狂の5日間は、大盛況のうちに幕を下ろした。遠野に滞在した選手や大会関係者は、市民に感謝の言葉を残し帰路に就いた。

会場地に内定してからの6年間、陰日向となって準備にあたり、開催期間中もそれぞれの形で参加した3万市民の全力応援が、国体を成功に導いた。遠野ならではのおもてなしは、東日本大震災の復興支援への感謝を伝え、多くの人に感動を与えた。そして、国体に参加することで、私たち自身も感動をもらった。

国体終了のホイッスルは、未来へのキックオフ。

次は、この感動をチカラに変え、市民協働によるまちづくりを、さらに盛り上げよう。そして、「サッカーのまち遠野」から、新たな感動を創造しよう。

市は、数々のドラマを生んだ国体会場をまちづくりに生かすため、11月1日、スポーツツーリズム推進室を立ち上げた（P33参照）。これから、スポーツを通じた交流を活発化させ、遠野の元気を発信していく。スポーツが生み出す感動と交流は、無限の可能性を秘めている。全国、そして世界のアスリートと触れ合う中で、遠野の子どもたちから、オリンピック選手やプロ選手が生まれるかもしれない。

46年後の国体も、遠野がサッカー競技の会場地であってほしい。私たちが見た光景が、遠野で再び繰り広げられたら、どんなにうれしいだろうか。国体の感動を次世代に受け継ぐことができたとき、その夢はかなう。さあ、未来へ向けて走り出そう。試合開始のホイッスルは鳴った。

◎第2部
「選手躍動。」につづく

Message

感動の国体。
Dramatic Days

遠野のサッカー愛には、無限の可能性がある。

Nobuo Fujinawa

（公社）日本サッカー協会
国体実施委員会 副委員長
藤縄 信夫（のぶお）さん

遠野の皆さん、この度はサッカー競技少年男子の大会運営にご協力いただき、本当にありがとうございました。

児童生徒による全試合の応援、ボランティアによる温かいおもてなしなど、遠野の皆さんの優しさがあふれる大会となり、大成功に終えることができました。全国から集まったサッカー少年たちは、皆さんのサポートのおかげで、のびのびとプレーしていました。彼らは、遠野での経験を糧に、将来のサッカー界を担う選手に成長してくれることでしょう。

遠野には、サッカーを愛する文化があります。そして、訪れた人を感動させる力があります。今後は、国体のために整備した上質なグラウンドを活用し、大会や合宿を積極的に誘致してはいかがでしょうか。

サッカーをはじめ、スポーツを通した多彩な交流は、地元選手のレベルアップにつながるだけでなく、観光業や商工業などにも良い波及効果をもたらします。

遠野のサッカー愛は、無限の可能性があります。ぜひ、「サッカーのまち遠野」を、さらに盛り上げていってください。

第２部

選手躍動。

スポーツ選手にとって、国内最高峰のタイトル「国体」。
今大会でも、リオ五輪のメダリストを含む、
国内のトップアスリートが熱戦を繰り広げた。
遠野人も、「岩手」を背負い躍動した。※敬称略

遠野が誇る空手の雄、過去最高の準Ｖ。

佐々木優太

Yuta Sasaki

空手道

成年男子組手中量級　準優勝
組手団体　３位

県営武道館

Profiele
ささき・ゆうた／
25歳／松崎町出身／東海大山形高卒
／㈱ＹＤＫコミュニケーションズ

競技別で総合優勝を果たした、空手道の岩手県代表チーム。佐々木選手は主将を務め、その立役者となった。個人組手では、過去最高となる準優勝。続く組手団体では、３位決定戦の重要な場面で、突き３発を放ち勝利。地元国体の重圧を跳ね返す活躍を見せ、県営武道館を熱狂させた。

佐々木選手は、遠野の空手道を長い間牽引。高校こそ山形県の強豪校に進学したが、卒業後は遠野に戻り、地元の道場で猛特訓に励んできた。その努力が見事に実った。

佐々木選手は「地元国体の重圧に押し潰されそうな時もあったが、岩手の皆さんの応援が最後は力になり、個人でも団体でも、最高の成績を残すことができた。この経験を岩手の選手に受け継いでいきたい」と誓った。

成年男子形
優勝

在本幸司

Koji Arimoto

東京五輪の有力候補、岩手で圧勝。

2020年の東京五輪で正式種目となる空手。４年後の出場選手として注目されているのが、在本選手だ。強豪の帝京大時代に、世界選手権形団体で優勝経験がある在本選手。その実績を買われ、昨年春、岩手の勝利請負人として遠野に拠点を移した。

個人形では、安定感ある演武で勝利を重ね、決勝では、世界選手権王者で国体３連覇中の喜友名諒選手（沖縄）と激突。「岩鶴（ガンガク）」と呼ばれる難易度の高い演目を、最後までミスなく演じ切り、３対２で念願の初優勝をつかんだ。

さらに、組手団体でも活躍。２対２でもつれ込んだ大将戦では、積極的な攻撃でポイントを重ね、３位入賞に貢献。岩手のエースとしての責任を果たした。

在本選手は、今後も遠野を拠点に選手活動を続け、東京五輪を目指す。国体覇者の実績を地域に還元し、岩手の空手を全国区にする。

空手道

成年男子形　優勝
組手団体　３位

県営武道館

Profiele
ありもと・こうじ／
25歳／岡山県出身／帝京大学卒／
㈲ツクバ精密

感動の国体。
Dramatic Days

空手道

少年女子組手　5位
組手団体　3位

県営武道館

Profiele
きくち・あみさ／
遠野東中出身／釜石高3年

岩手の女王、集大成の国体。

菊池亜美紗

Amisa Kikuchi

3 年連続でインターハイを経験している菊池選手。岩手の高校女子では絶対王者として君臨してきた。集大成となる今大会では、持ち味の積極的な攻撃でポイントを量産。個人組手で自身最高の5位入賞を果たした。団体でも白星を上げ、3位入賞の一翼を担った。

この3年間は、強豪の釜石高で空手漬けの毎日を送った。部活のみならず、地元の道場でも練習に励み、国体を意識した特訓に臨んだ。

「地元国体で成果を残せてうれしい。社会人になっても空手を続け、遠野の空手を盛り上げたいと、岩手の女王は決意を新たにした。

選手躍動。

空手道

少年男子組手　5位
組手団体　3位

県営武道館

Profiele
ほそかわ・だいすけ／
遠野中出身／釜石高3年

全国の壁を、自力で撃破。

細川大輔

Daisuke Hosokawa

釜 石高の最強コンビと言えば、菊池と細川。細川選手も、2年連続で個人組手でインターハイに出場している。全国ではなかなか勝利を挙げられなかった分、インターハイ後は、国体での勝利を見据え、誰よりも練習に打ち込んできた。

そして迎えた地元国体。豊富な練習量に裏付けされた、キレのある攻撃と的確な守りで勝利を重ね、個人では5位入賞。団体では、4強が懸った大一番で白星を挙げた。

細川選手は「最後の大舞台で力を出し切ることができ、悔いはない。応援してくれた皆さんには感謝の気持ちで一杯」と笑顔で振り返った。

ソフトボール

少年女子　3位

石鳥谷ふれあい運動公園

Profiele
きくち・ともみ／
遠野東中出身／花巻東高3

20年ぶりの3位に攻守で貢献

菊池朋美

Tomomi Kikuchi

4 番で捕手。菊池選手は県代表の要として、県勢歴代最高成績に並ぶ3位入賞を支えた。

初戦と2回戦は、ともに得点に絡む好打を連発。準決勝は、今年のインターハイ覇者の千葉経大附高が主体の千葉に1対7で敗れたが、菊池選手は2安打を放ち相手を苦しめた。また、危機的場面で、2盗と3盗を捕殺するなど、守備でもチームに貢献した。目標の優勝には届かなかったが、岩手ナインの活躍は、地元国体に歴史を刻んだ。

「最高の仲間とプレーできたことは誇り。悔しさを忘れず、大学で全国制覇を目指す」とさらなる飛躍を誓った。

感動の国体。Dramatic Days

ボクシング
／水沢体育館

菊池弥寛

Yahiro Kikuchi

Profiele　きくち・やひろ／遠野東中出身／黒沢尻工業高2

初戦敗退は飛躍のゴング

2 年生ながら、少年男子ライトウェルター級に出場した菊池選手。幼いころに始めた空手のノウハウを生かし、岩手のホープに急成長した。初戦は、熊本県代表の格上が相手。2分3ラウンドを戦い抜いたが、判定負けで涙を飲んだ。

「今回の経験を生かし、来年のインターハイと国体では、上位入賞を目指す」と雪辱を誓った。

円盤投げ
／北上総合運動公園陸上競技場

浅沼花南

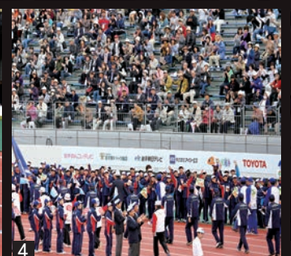
Kana Asanuma

Profiele　あさぬま・かな／遠野西中出身／北上翔南高3

全身全霊をかけた最終投てき

中 学時代に砲丸投げで頭角を現し、北上翔南高の本庄監督のもとで円盤投げを始めた。2年連続インターハイ出場を果たし、満を持して臨んだ地元国体。3年間の全てを円盤に乗せた投てきは、35メートル50で13位。悪天候もあり、自己ベストに届かなかった。「地元国体に出場できたことは誇り。これまで応援してくれた皆さんに感謝したい」と笑顔で大会を終えた。

感動の国体。Dramatic Days



総合閉会式
Closing Ceremony

1＿選手団は晴れやかな表情で入場　2＿表彰式。岩手は天皇杯（男女総合成績）・皇后杯（女子総合成績）でいずれも２位を獲得。昭和45年岩手国体以来の好成績だった　3＿炬火は希望郷いわて大会に分火　4＿退場する選手団を本県選手団と観客が大きな拍手で送り出し、感謝を伝えた　5＿特別イベントとして、EXILE のメンバーが被災３県の小中学生とダンス

「感動の国体」は、復興の象徴として伝説になる。

総合閉会式は10月11日、北上総合運動公園陸上競技場で行われ、熱狂の11日間は幕を閉じた。全国の選手団は晴れやかな表情で参加。大会を見守ってきた炬火は、希望郷いわて大会（全国障がい者スポーツ大会）に引き継がれた。会場は、選手の健闘をたたえる拍手が鳴り響いた。

遠野の選手の活躍もあり、本県選手団は、天皇杯（男女総合）と皇后杯（女子総合）でいずれも２位を獲得。地元国体に向けた各競技団体による強化が実を結び、目標の８位を大きく上回る結果となった。今大会の出場選手の中には、２０２０年東京五輪が有望視されている選手もいる。彼らの躍動は、県民に勇気と感動を与えた。

東日本大震災を乗り越え、46年ぶりに開催されたスポーツの祭典「希望郷いわて国体」。国体が生んだ感動は、震災復興の大きな力となり、岩手の未来を創ることだろう。そして、完全復興が成し遂げられたとき、この「感動の国体」は、復興のシンボルとして伝説になる。

◎総力特集「感動の国体。」

おわり

お知らせ　希望郷いわて大会（全国障がい者スポーツ大会）に出場した遠野の選手の活躍は、本誌12月号でお知らせします。

遠野馬の里の千葉副場長によるポニー演技。会場を盛り上げ、遠野の名を全国にＰＲした

人馬一体の飛躍

これまで、９回の国体出場を数える山口選手。地元国体では、豊富な経験を買われ、監督兼選手に大抜てきされた。選手として出場した成年男子トップスコア競技では、ミスが響き18位。その後は監督として選手のサポートに徹し、数々の入賞を支えた。期間中は、遠野馬の里から応援団が駆け付け、ポニー演技や引き馬体験を行い会場を盛り上げた。

馬術／水沢競馬場
山口勝也
Katuya Yamaguchi

Profiele　やまぐち・かつや／33歳／東京都出身／遠野馬の里

快音響くも強豪実業団に惜敗

ソフトボール成年男子は、実業団のホンダエンジニアリングを主体とする栃木県代表と初戦で激突。中川選手は、１対３とリードされた最終回、２アウトの場面に代打として出場した。鋭く振りぬいた一打はセンター前ヒット。逆転に望みをつないだが、後続が打ち取られゲームセット。あと１打のところで涙を飲んだ。中川選手は「この悔しさを次の大会に生かす」と雪辱を誓った。

ソフトボール
／石鳥谷ふれあい運動公園
中川卓
Takashi Nakagawa

Profiele　なかがわ・たかし／22歳／盛岡市出身／遠野新町郵便局

東日本大震災復興の架け橋　第71回国民体育大会
2016 希望郷いわて国体
広げよう 感動。伝えよう 感謝。

選手躍動。

Close up クローズ・アップ

公開競技「グラウンド・ゴルフ」遠野の選手が初優勝に貢献。

「希望郷いわて国体」の公開競技グラウンド・ゴルフは９月24・25日の２日間、大船渡市の盛川河川敷公園で開催された。県代表として、大船渡市から６人、遠野市から６人の計12人が出場。12回のホールインワンを含む３ラウンド計575打で、県代表は初の団体優勝を果たした。個人女子では、菊池勇子選手が２位、菊池マサ子選手が６位に入賞した。

【遠野の選手】　**上段左から**／菊池繁（早瀬町）、佐々木秀喜（松崎町）、東梅敏雄（遠野町）　**下段左から**／菊池勇子（綾織町）、菊池マサ子（土淵町）、菊池智子（松崎町）